

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名：神経内科研修プログラム

病院名： あきた病院

2. 診療科：神経内科

3. コースの概要

留学期間中、神経内科にて、神経変性疾患、筋疾患、末梢神経障害などを中心に症例を経験する。

4. 目標

短期目標は神経筋疾患の基礎知識、診察法、検査法、治療法を一通り修得できることを目的とする。また、神経筋疾患は全身管理を必要とするため内科的全般の知識も取得する。当院の特徴としては人工呼吸器も多く使用しているため人工呼吸器管理に必要な知識も獲得する。また、長期目標について、神経内科医は、診断や治療もさることながら長期的な観点からその疾患の経過や合併症を予想でき、また、患者個人のより良いQOLを目指すために、それに対して適切なアドバイスができることが必要である。従って、神経内科医としての専門知識の獲得とともに医師としての全人的な素養を養うことも目標とする。

5. 取得手技

神経内科疾患の検査・治療に必要な基本的手技を取得する。

(神経診察手技、高次機能検査、CT, & MRI 画像診断、神経伝導検査、針筋電図、髄液検査、筋生検、脳波、ボトックス注射など)

また、当院で神経疾患の遺伝子診断の手技を取得し、診断することも可能である。

6. 研修期間：6ヶ月

7. 募集人数：数名

8. 診療科の実績

主要疾患	入院数 (年間)	主要疾患	入院数 (年間)
運動ニューロン疾患	32	前頭側頭葉型認知症	0
パーキンソン病	66	筋ジストロフィー	38
脊髄小脳変性症	16	筋炎・ミオパチー	7
多系統萎縮症	28	末梢神経障害	0
皮質基底核変性症	0	クロイツフェルドヤコブ病	4

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 5名 非常勤 3名

主として研修指導にあたる責任医師 和田 千鶴 (経験年数34年)

10. コンセプト

当科で取り扱う疾患は、神経変性疾患（筋萎縮側索硬化症、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、アルツハイマー病、前頭側頭葉型認知症など）、筋疾患・神経筋接合部疾患（筋ジストロフィー、遠位型ミオパチー、筋炎、重症筋無力症など）、脱髄性疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎など）、末梢神経障害（シャルコーマリートゥース病、膠原病に伴うニューロパチーなど）、脳炎・脳症（クロイツフェルドヤコブ病、脳症など）多岐にわたる。急性期疾患の対応もおこなっているため、その診断の能力を身につけるとともに、胃瘻、人工呼吸器も含めた全身管理ができることも到達目標である。また、外来では、頭痛、めまい、てんかん、失神などいわゆる common disease と称される疾患も多数経験できる。当院では遺伝子診断も行っており、希望があればその技術も習得可能である。県内では神経内科専門医数が多い病院の一つでもあるため神経内科診療に関しては充実しており、毎週、神経内科医全員での各患者の回診&ディスカッションも行っている。従って、自分の患者に関する知識のみならず幅広い疾患の情報を得ることができる。さらに、厚労省の難病関連の班会議や国立病院機構の研究班にも所属しているため、様々な情報が迅速取得でき診療に反映することができる。神経内科専門医には、当院は神経内科教育病院に指定されているので、最低年限での取得が可能である。

11. その他（研修関連情報など）

研修教育プログラム（週一回）

臨床カンファレンス（週一回）